

2021年（令和3年）全国犬猫飼育実態調査 結果

犬：710万6千頭、猫：894万6千頭
犬・猫 推計飼育頭数全国合計は、1,605万2千頭

犬・猫飼育頭数に関しては、単身世帯が増加し続けていることを考慮し、単身世帯と2人以上世帯を分けて推計し、最後に合算する計算式に改定を行った。時系列では、調査対象年齢を20～70代とした2013年～2021年の9年間の調査結果により今回集計。

猫の飼育頭数は2013年以来緩やかに増加であるが、犬の飼育頭数は減少傾向。一方、1年以内新規飼育者の飼育頭数は、犬・猫共にコロナ前の2019年に比べ、2020年、2021年ともに増加となっている。新型コロナウイルス禍の影響で、ペットとの生活から癒しを求めたり、家族内でのコミュニケーションを深めている傾向がうかがえる。

ペットフードの事業者を中心とした87社（正会員51社、賛助会員36社）で組織する一般社団法人ペットフード協会【東京都千代田区、会長：児玉 博充】は、2021年（令和3年）全国犬猫飼育実態調査を行ない、この度その結果がまとまりました。

主な結果は次の通りです。

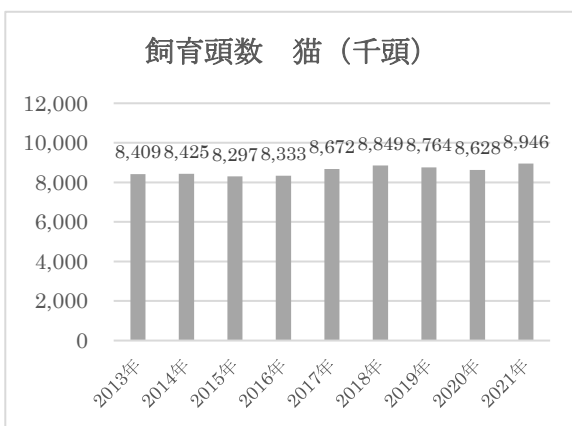
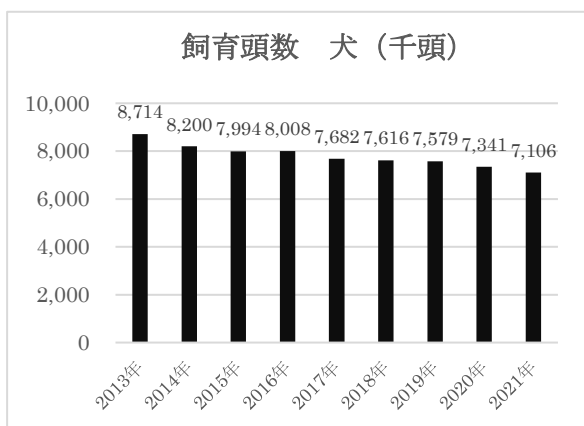
1. 2021年 全国犬・猫 推計飼育頭数（P. 17～21）

全国の推計飼育頭数 犬：710万6千頭、猫：894万6千頭。

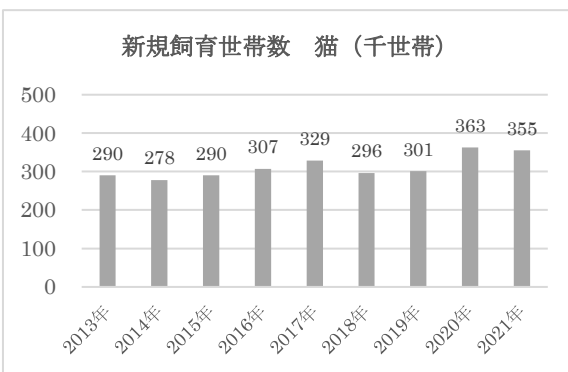
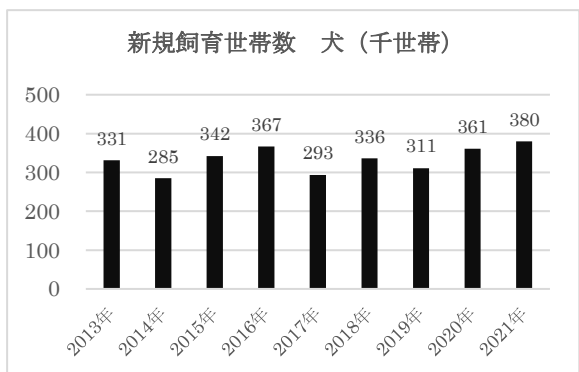
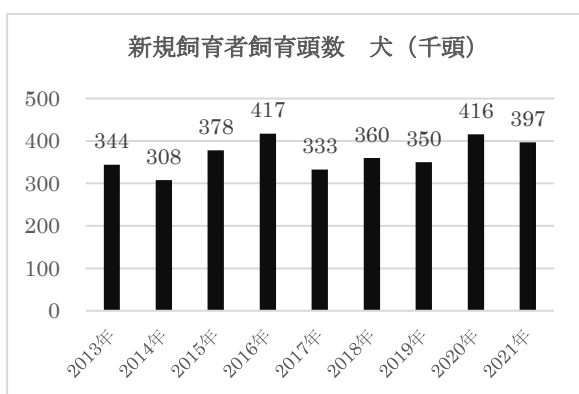
単身世帯が増加し続けていることから、今回の飼育頭数推計は、単身世帯と2人以上世帯を分けて推計し、最後に合計する計算式に改定を行いました。時系列では、調査対象者の年齢が「20～79歳」とした2013年～2020年の9年間の調査結果により今回集計しています。

猫の飼育頭数は2013年以来緩やかに増加でしたが、犬の飼育頭数は減少傾向となりました。今回の調査でも、猫の飼育頭数が犬の飼育頭数を上回りました。

*なお、猫の頭数調査結果には外猫の数は含まれておりません。



一方、1年以内新規飼育者の飼育頭数は、犬・猫共にコロナ前の2019年に比べ、2020年、2021年ともに増加となっています。



*平均寿命を迎える2005年～2007年に生まれた犬は80～100万頭前後いるため、新規飼育者の飼育頭数増にもかかわらず、犬の総飼育頭数は減少となっています。

2. 新型コロナウイルス流行による飼育への影響 (P. 43)

新型コロナ後に飼育し始めた人に特徴的な影響は、犬飼育者では「心穏やかに過ごせる日々が増えた」、猫飼育者では「毎日の生活が楽になった」でした。20年に続き、新型コロナ前と比べて、「ペットと過ごす時間」が増え、「ペットを癒し」と感じる人も増えています。

3. 2021年 犬猫の年代別現在飼育状況 (P. 22)

年代別での飼育状況をみると、5年前と比べ犬の飼育率はほぼ全ての年代で減少しており、最も飼育率の低下が顕著なのは50代でした。また、猫の飼育率は、5年前と比べてほぼ横ばいとなっています。

()は2017年比

	犬	猫
全体	11.3% (▲1.5%)	9.8% (0.1%)
20代	12.6% (▲0.7%)	9.1% (0.1%)
30代	11.0% (0.3%)	9.8% (0.9%)
40代	11.3% (▲1.4%)	10.2% (0.0%)
50代	12.2% (▲3.2%)	10.9% (▲0.6%)
60代	11.7% (▲2.5%)	10.8% (0.2%)
70代	9.2% (▲1.3%)	7.8% (0.2%)

4. 2021年 犬猫の年代別今後の飼育意向 (P. 24)

年代別での今後の飼育意向は、犬猫ともに5年前と比べ低下傾向となっていますが、特に50代以下の飼育意向で低下が続いています。

()は2017年比

	犬	猫
全体	18.4% (▲2.6%)	15.0% (▲1.3%)
20代	21.6% (▲3.8%)	16.6% (▲4.1%)
30代	19.4% (▲2.1%)	16.1% (▲1.3%)
40代	18.8% (▲2.5%)	16.2% (▲1.3%)
50代	19.4% (▲3.7%)	16.5% (▲1.6%)
60代	17.3% (▲2.3%)	14.6% (0.6%)
70代	14.9% (▲0.5%)	10.2% (▲0.2%)

5. 2021年 今後ペットの飼育促進に向けて

今後ペットの飼育促進に向けて、現在、非飼育者で飼育意向のある方々の「阻害要因」、「飼育のきっかけ」への回答として挙げられた上位項目は以下の通りとなりました。(複数回答)

阻害要因 非飼育者&飼育意向あり__犬 (P. 87)

1. 旅行など長期の外出がしづらくなる	28.2%
2. 別れがづらい	27.4%
3. 集合住宅に住んでいて禁止されている	24.3%
4. 死ぬとかわいそう	23.4%
5. お金がかかる	21.1%

阻害要因 非飼育者&飼育意向あり__猫 (P. 88)

1. 集合住宅に住んでいて禁止されている	34.3%
2. 旅行など長期の外出がしづらくなる	24.1%
3. 別れがづらい	22.9%
4. 死ぬとかわいそう	17.5%
5. お金がかかる	16.7%

飼育理由__犬 (P. 54)

1. 生活に癒し・安らぎが欲しかったから	29.8%
2. 過去に飼育経験があり、また飼いたくなったから	27.6%
3. 家族や夫婦間のコミュニケーションに役立つと思ったから	15.4%

飼育理由__猫 (P. 70)

1. 過去に飼育経験があり、また飼いたくなったから	28.8%
2. 生活に癒し・安らぎが欲しかったから	27.9%
3. 生活を充実させたいから	11.2%

6. 2021年 犬・猫平均寿命 (P. 32)

犬全体の平均寿命は14.65歳で2010年に比べ0.78歳プラス、猫全体の平均寿命は15.66歳で2010年に比べ1.30歳プラスで平均寿命は犬猫ともに2010年以来伸びています。犬は、超小型犬の寿命が長く、また、猫の場合、「家の外に出ない」猫の平均寿命は16.22歳、「家の外に出る」猫の平均寿命は13.75歳と寿命に大きな差がありました。

7. ペットと飼い主の関係性の変化 (P. 50)

生活に喜びを与えてくれることとして、犬飼育者にとって「家族」、「ペット」の順、猫飼育者にとっては「ペット」、「家族」の順となりました。特に40～50代、単身、未婚親同居者にとってはその特徴が顕著となりました。

8. 2021年 ペットフードのタイプ別利用率（複数回答）（P. 80）

犬猫共に市販のドライタイプのペットフードの利用が約9割あり、ほとんどの飼育者が何らかの市販のペットフードを利用しています。

また、コロナ禍で在宅時間が増えた中、コミュニケーションを目的としたおやつやウエットフードの給餌頻度が高まり、犬猫の食事の多様化がうかがえます。

（ ）は去年の数字

ペットフードのタイプ	犬	猫（外猫を除く）
市販のドライタイプ	84.6%（84.0%）	92.5%（91.5%）
市販のウエットタイプ	29.5%（28.6%）	50.2%（49.7%）
市販の半生タイプ	19.3%（20.1%）	17.8%（17.2%）
市販のおやつ	40.2%（40.9%）	46.3%（43.7%）
ペット用療法食	8.6%（9.2%）	11.6%（11.2%）
手作りのペット用食事	13.1%（13.8%）	3.2%（3.7%）
人間の食事の残り	5.4%（6.3%）	2.4%（3.5%）
その他	3.0%（3.1%）	1.9%（2.1%）

9. 2021年 1ヶ月当たり支出総額（犬：P. 56 猫：P. 71）

犬猫それぞれの支出総額は以下の通りです。（ ）は去年の数字

犬に関する支出総額（医療費等含む） ￥13,843（￥12,020）

猫に関する支出総額（医療費等含む） ￥8,460（￥7,252）

以上